

# こうざ えもんつうしん 講左衛門通信

平成26年1月12日

## 第13号

発行 天台宗忍草山東円寺

〒401-0511

南都留郡忍野村忍草38

☎ 0555-84-4114

『講左衛門さん、あけましておめで  
とうでまっすん。今年もよろしくで  
まっすん。』

『クニマッスン、今年も頼むぞ。今  
年の元旦は、穏やかで良い日だった  
な。良い年を迎えることができて良  
かったのう。さて、今年最初の講左衛門通信は、何を話すことになっておったかのう。』

『忍野八海が再興された時の、収支決算書の話でまっすん。』

『そうだったのう。東円寺に残る、忍野八海再興の収支決算書（元八湖再興諸掛帳）は、それを見るだけで、忍野八海がどのようにして造られたのか分かるんじゃ。東円寺のホームページ、寺宝・文化財をクリックして、忍野八海古文書類をクリックすると、報告書の写真を見ることができそ。多くの人々が、富士山の霊力にあやかり、幸福に暮らしたいという願いを忍野八海に託した。様々な意味で忍野八海は魅力的な場所なんじゃよ。忍野八海が富士山世界文化遺産の構成資産になったのは、その価値が、世界で認められたということじゃ。』

『東円寺のホームページでは、大我講の講中名簿も写真で紹介しているでまっすん。たくさんの講中名が書かれているでまっすん。全盛期には、忍野八海に白装束の講中が大勢いたんだらうと想像すると、わくわくするでまっすん。そういえば、講中が八海を巡るとき、お金をまいたという話を90歳くらいのお婆ちゃんから聞いたことがあるけど本当でまっすん。』

『東円寺のホームページでは、大我講の講中名簿も写真で紹介しているでまっすん。たくさんの講中名が書かれているでまっすん。全盛期には、忍野八海に白装束の講中が大勢いたんだらうと想像すると、わくわくするでまっすん。そういえば、講中が八海を巡るとき、お金をまいたという話を90歳くらいのお婆ちゃんから聞いたことがあるけど本当でまっすん。』

『<sup>まきせん</sup>「撒き銭」という、主に子供たちに施したお金のことじゃな。その撒き銭を拾った記憶のあるお婆さんがご健在なんじゃな。今では想像もつかないほど変わってしまったからのう・・・想像するのは難しいことじゃが、語り継いでいかななくてはいけないのう・・・』

『時代が変わり、忍野八海の風景も変わってしまったでまっすん。これから、どのように守って  
いけばいいのかわからないでまっすん。』

『確かに、難しい問題じゃ。世界文化遺産に認められたことで、海外から多くの観光客が訪れるじゃらう。ある人が言っておった。何よりのお土産は、その土地の話じゃと・・・忍野八海の歴史、また、現在の魅力を案内してくれる、昔でいえば御師、現在でいう忍野八海のガイドが増えることを願っておる。』

『次回は、どんなお話をしてくれるでまっすん・・・』

『忍草にはかぐや姫伝説が残っておるんじゃよ。忍野八海が再興された時代からさらに昔、忍草には富士山と深い関わりがある話があるんじゃ。その証拠も残っておるんじゃよ。』

『楽しみにしているでまっすん。』

『今年も、講左衛門通信をよろしく頼むのう・・・』

『講左衛門通信』は、第2・第4日曜日に発行予定



ふじのだいがこうざ えもん 年齢不詳

職業 大我講の先達

(先達とは富士山案内責任者)